

# 第4回沖縄鉄軌道市町村会議

## 議事要旨

### 1. 開催状況

日時：平成29年9月20日（火）14：00～16：30

場所：沖縄県南部合同庁舎 5階 会議室

出席市町村

名護市、国頭村、大宜味村、東村、本部町、恩納村、宜野座村、  
金武町、宜野湾市、沖縄市、うるま市、読谷村、嘉手納町、北谷町、  
北中城村、西原町、那覇市、浦添市、糸満市、豊見城市、南城市、  
与那原町、八重瀬町

（欠席：国頭村、今帰仁村、中城村、浦添市、南風原町）

### 2. 主な議題

- （1）沖縄鉄軌道計画案の検討内容について
- （2）フィーダー交通ネットワークの検討に向けて

### 3. 議事要旨

- （1）事務局より議題に沿って説明を行い、意見交換がなされた。
- （2）市町村会議での主な意見は下記のとおり。

#### <市町村会議の主な意見について>

- 今回、那覇～糸満、那覇～与那原は採算性の低下を招くということで除外されている。各ルート案は骨格軸全体で評価するのに対し、延伸の可否については、延伸部分のみで評価して判断するのは公平性に欠けるのではないか。
- 延伸については、採算が取れないとのことで不可となっているということであれば、採算が合わない案は、ステップ4の段階で落とされると認識していいか。
- 豊見城市としては、糸満市までの区間は延伸ではなく、もともとあったものが削られたとの認識である。
- 南部地域は交通量が増加しているが、これまでモノレールや基幹バス等の検討は那覇以北のみであり、南部地域の公共交通についても検討してほしい。

- 南部は自動車交通量も多いが、需要予測に反映されているのか、需要予測の再現結果、交通量の推計結果を示して欲しい。
- 与那原町では那覇市、南風原町、西原町と平成24年度から勉強会を重ねてきているが、今後、協議会に格上げした場合、県も参加してもらえるか。

第4回沖縄鉄軌道市町村会議 << 議事メモ >>

発言者	発言
本部町	<p>ゆいレールの場合と、つくばエクスプレスの場合の運賃を教えてください。</p> <p>また、鉄軌道に関して内閣府からの指摘事項があれば教えてください。</p> <p>⇒参考資料 1-2-2 の 23 頁にグラフがあり、それによると、つくばエクスプレスの運賃水準であれば、60km で 1,200 円となっている。ゆいレールはこれよりも少し安くなっている。</p> <p>内閣府は、コスト面、採算性面で厳しく、課題が多く、検討・調査がまだまだ必要との認識だ。県としては、国の理解を得られるような、構想をつくって対応しているところである。</p>
与那原町	<p>与那原～那覇間の利用者数が 1,500 人/時以下とあるが、この人数に MICE の利用者は含まれているか。</p> <p>⇒MICE の年間需要 77 万人を日あたりにすると、約 2000 人程度となり、これら MICE 利用も含め検討している。</p> <p>なお、MICE 利用者は、全て那覇～与那原間を移動するわけでないので、県内客、県外客分けて発生箇所を想定して予測を行っている。</p>
豊見城市	<p>新規事業採択時評価などに関して、国と調整を行っているか。</p> <p>⇒事業実施の判断は、計画段階の検討後となる。</p> <p>沖縄 21 世紀ビジョンでは中南部都市圏を縦貫して北部圏域に至るとあるが、今回、那覇～糸満、那覇～与那原は採算性の低下を招くということで除外されている。各ルート案は骨格軸全体で評価するのに対し、延伸の可否については、延伸部分のみで評価して判断するのは公平性に欠けるのではないか。</p> <p>⇒ 沖縄県総合交通体系基本計画では、北部や、石垣、宮古と那覇を 1 時間で結ぶことで、各地域から那覇の高次機能を享受できるようにするという大きな目標を掲げている。</p> <p>これまでの取組において、「将来の姿の実現に向けた公共交通の役割」として圏域間の連携強化が確認され、さらに県民意見で「採算性」が加えられている。</p> <p>鉄軌道的那覇以南への延伸については、赤字となり骨格軸の採算性の低下を招くとの試算結果が得られたことから、専門委員会において那覇と名護を起終点として検討を進めることが確認されている。</p> <p>沖縄の将来の姿の実現等にあたっては、鉄軌道の導入と併せてフィーダー交通が連携する利便性の高い公共交通ネットワークの構築が重要と考えており、県としては、市町</p>

	<p>村と連携しながら、地域の交通課題やニーズ等を踏まえフィーダー交通の充実について検討していく。</p> <p>豊見城市、糸満市からの意見は委員会に報告する。</p>
糸満市	<p>延伸については、採算が取れないとのことで不可となっているということであれば、B案は、採算が合わないということで、この段階で落とされると認識していいか。</p> <p>⇒ステップ4では各案について、評価項目ごとにしっかり評価を行う段階である。各案の優劣をつける段階ではない。</p> <p>次のステップ5で、選定の考えを整理し、総合的に判断することになる。</p> <p>延伸部分については骨格軸がどの案になったとしても支えることができるかという視点で評価判断したところ。</p>
豊見城市	<p>市としては、糸満市までの区間は延伸ではなく、もともとあったものが削られたと認識している。</p> <p>南部地域は交通量が増加しているが、これまでモノレールや基幹バス等の検討は那覇以北のみであり、南部地域の公共交通についても検討してほしい。</p> <p>南部は自動車交通量も多いが、需要予測に反映されているのか、需要予測の再現結果、交通量の推計結果を示して欲しい。</p> <p>⇒需要推計にあたっては、市町村から提供いただいた開発計画もふまえて行っている。</p> <p>技術的な点については、専門家の先生方に報告し、委員会で議論させていただく。</p> <p>現況再現は、現況のデータが未計測となっていることから、委員会において傍証を行い、モデルの結果等について確認している。</p> <p>交通量のデータ提供については、その旨委員会に報告し、お示ししていきたい。</p>
南城市	<p>南城市内には3つのバス事業者があり、南城市中心地のバスターミナル機能をもった施設を整備し、そこから那覇市への路線や、市内を回るフィーダー交通の導入などの再編を検討している。</p>
与那原町	<p>与那原町では那覇市、南風原町、西原町と平成24年度から勉強会を重ねてきているが、今後、協議会に格上げした場合、県も参加してもらえるか。</p> <p>⇒協議会への参加については、関係市町村から協議会の設立趣旨等が示され次第、県の関わり方について検討してまいりたいと考えている。</p>
沖縄市	<p>沖縄市は基幹バス構想の終点がコザであるが、これまで公共交通のあり方について検討がなされていなかったことから、今年度、網形成計画の策定を行っている。</p>

